



アザメ新聞 (号外2)

(アザメの瀬シードバンクの歩み)

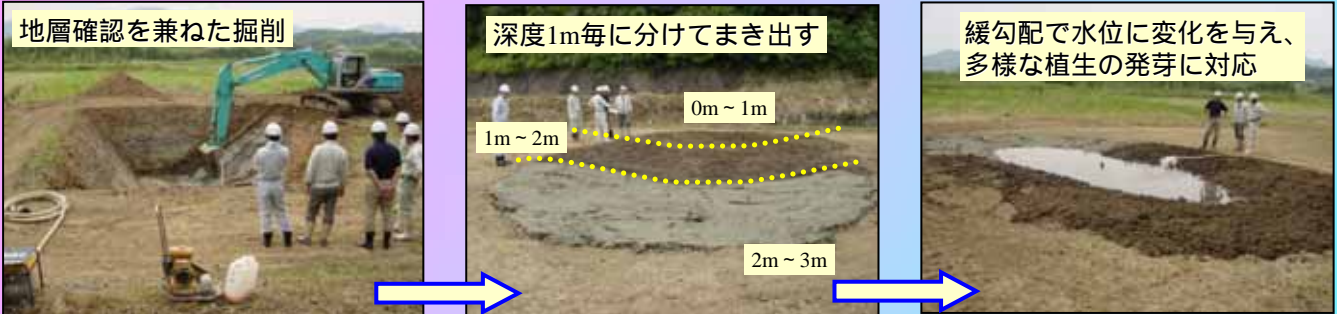
平成15年2月7日発行

アザメの瀬でのシードバンク調査を実施したきっかけは、H13.11.19第2回検討会で東京大学西廣助手からシードバンク(埋土種子集団)の話聞いたことに始まります。(夢のある話に感動しました)

松浦川流域で初めてのシードバンク調査!

「シード」は「タネ」、「バンク」は「銀行」の意味です。河原の植物は洪水のたびに流されてしまいます。そのため河原特有の植物はタネが土から掘り返されてはじめて芽を出す(光発芽)ものが多いのが特徴です。人間の努力で洪水は減少しましたが、そのかわりに多くの河原特有の植物はタネが発芽しないまま姿を消してしまいました。しかし、土の中には洪水をまって長い間眠っているタネがたくさん含まれているはず。それらのタネを目覚めさせれば過去にあった植物を知ることができるのです。

西廣助手から東京での事例を入手し、見よう見まねでH14.6にシードバンク調査を開始しました。



長い眠りから目覚めた植物体(7月の様子)

暑い日差しにも負けず元気な植生達。水生昆虫やトンボなどが多く見られました。

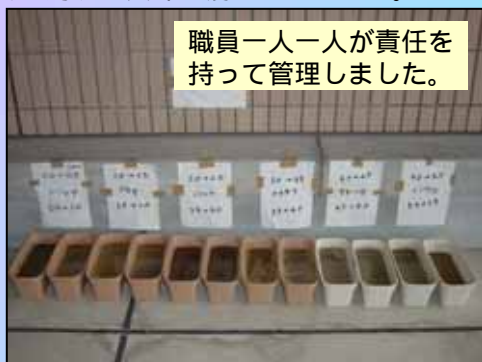


調査の結果、絶滅危惧 A類の車軸藻(シャジクモ)が発見されました。あとは、コナギ、タマガヤツリ、チョウジタデ、アゼナ、イボクサ、ヒデリコ、ミズマツバ、タカサブロウ、など多数の植生が見られました。



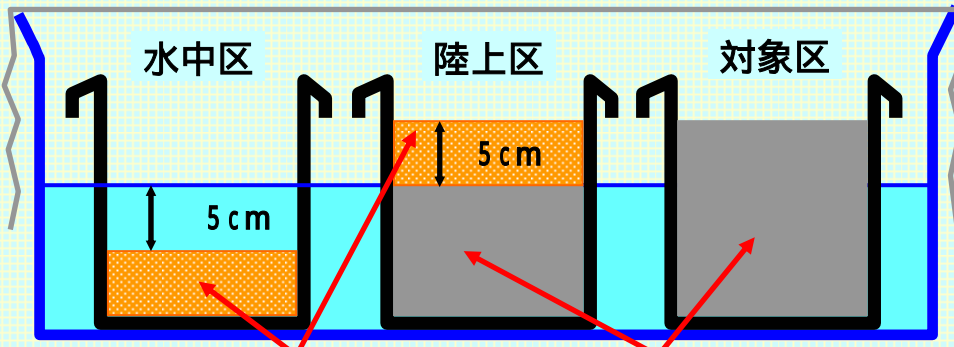
事務所職員でシードバンク調査を実施!

地層調査を行った際の残試料を使って事務所の屋上で自称シードバンク調査を実施しました。住民のみなさんへシードバンク調査のすばらしさを解って貰うには、まず自分たちで始めようと考え実施しました。ノウハウを知らずに行った結果、表層部分からの発芽は見られましたが、下層部からの発芽は見られませんでした。しかし、自分でやることで、植物に対する興味が湧いてきました。



地元の方々とシードバンク調査を実施!

地層調査を実施した試料を用いて調査箇所別にプランターで管理し、水位を2パターンに分け多様性に富む植物達に対応しました。この調査には、住民の方々にも参加していただき、植生についての知識を高めました。



河原から掘り出した土

市販されているタネを含まない土



時々水をたして水位を保つ。タンポポのようによそから飛んでくるタネに気を付けます。



調査1ヶ月後の様子(10月)

陸上区、水中区共に10日前後で発芽しました。調査をやってみて一番困ったのは同定が自分たちで出来ないことです。文献などを見ていますが、すごく時間がかかってしまいます。文献で解った時には二度と忘れないという良い面もありますが...とにかく、調査を行ってみてシードバンクのすばらしさを改めて実感しました。



同定作業の実施

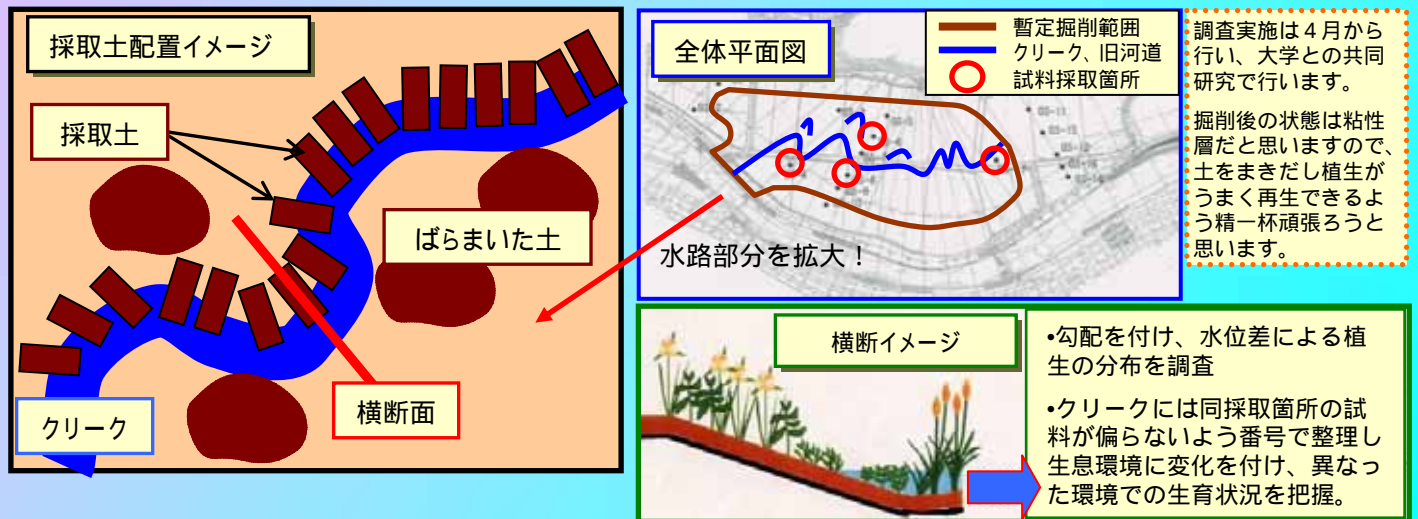
1つ1つ丁寧に抜き取り、種類を確認し、記録していきます。

成長が遅く、種類の判別が難しいものは、**マーキング**し成長を待ちます。

9月に調査を実施し、11月に同定(植物の種類を調べること)作業を行いました。約20種の植生が発芽し、中には絶滅が危惧されている種類(車軸藻「シャジクモ」)も見つかりました。植物には春に芽生えるもの、秋に芽生えるものがあり、引き続き調査を行います。春になれば新しい種類が芽生えることでしょう。

シードバンクを利用した植生の再生を計画!

平成15年1月より掘削を行っており、4月には暫定的に河川水を取り込み湿地を再生していきます。湿地の再生にはシードバンクを利用します。湿地内に水路を復元し、アザメの瀬の土や流域内の土をまきだし発芽を待ちます。



調査実施は4月から行い、大学との共同研究で行います。

掘削後の状態は粘性層だと思しますので、土をまきだし植生がうまく再生できるよう精一杯頑張ろうと思います。

・勾配を付け、水位差による植生の分布を調査
・クリークには同採取箇所の試料が偏らないよう番号で整理し生息環境に変化を付け、異なった環境での生育状況を把握。